

高松市生涯学習センター 生涯学習推進事業（他団体との共催事業）

「大人のためのお金と生活の知恵」を開催しました。

令和3年7月6日（火）、金融広報アドバイザー 綾田 亨さんを講師にお迎えし、「大人のためのお金と生活の知恵」を開催しました。

まず、金融庁が作成した「夫婦で95歳まで生きると年金以外に2,000万円の蓄えが必要」と試算された老後資金についての報告書の考え方について説明をしてくださいました。



「2,000万円不足」という内容に衝撃を受けましたが、報告書は、①現役期は、早い時期から少額でも積み立て・分散投資 ②退職前後は、もう少し長く働くことを検討 ③高齢期は、自らの資産額に応じて計画的な取り崩し 等との考え方に基づいており、「基本的にこの考え方は間違っていない」とのお話でした。

そこで、65歳リタイア後、男性は20年、女性は25年平均余命があるとして、老後の生活費を試算し、老後資金の総額は、約9,700万円となる例を挙げて説明してくださいました。基本部分である7,200万円は公的年金で確保しますが、残りの約2,500万円は、節約、バイト、資産運用など自力で備える必要があります。ただし、年金の不足額は人により全く異なりますので、一律に考えることはできないそうです。

また、今後、物価が上がっても、年金はそれに比例して増えることはなく、実質、年金は少しずつ減っていくとのことでした。そこで、まずは、自分の年金額を調べてくださいとのことでした。そして、年金の繰り上げ、繰り下げは、慎重に対応してくださいとのことでした。

次に、年金の不足分を節約でカバーするための方策を教えてください、◎リタイア後は、基本的には生命保険は不要、◎民間の医療保険は必要な人だけ、◎民間の介護保険もしばらくは様子見で、とのことでした。まずは、健康保険の高額療養費など、公的な健康保険を使ってくださいとのことでした。

また、シニア世代の資産運用については、以下の注意点があるとのことでした。

◎守りの資産運用で！ハイリスクは避ける⇒基本は預貯金で

◎リスクなしで期待できる利回りを知る

◎年齢に応じて安全資産(預貯金)を増やしていく

◎コストの高い商品は避ける

◎自分で理解できない商品は買わない

年齢とともにリスク資産への配分を減らしていくことも大事で、

【100－年齢－10＝リスク資産への配分比率（最大値）】の考え方を教えてくださいました。

最後に、個人の資産形成支援制度として、利益に税金がかからないNISAやiDeCoについても説明いただき、リタイア後に向けて、今からできる節約や資産運用などについて考えさせられる講座でした。